

訃 報 — 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

渡邊 一男 殿(建設/農業/総合技術監理部門) 平成25年9月8日逝去 71歳

■ ■ ■ 編 集 後 記 ■ ■ ■

日頃、本誌の執筆にご協力いただき、この場をお借りしてお礼申し上げます。

最近、手芸や裁縫がマイブームだ。この冬は帽子を編んだし、昨夏は部屋着を作ってよく着たものだ。手作業は完成まで時間はかかるし、できあがりは不格好で人様に見せられたものではない。ほしいものが明確なら買ってきた方が早い。でもほしいものを自分の手で作ることは、ほしいものを手に入れたい気持ちを熟成させる時間でもあると思う。技術的な文章を書くときも同じで、理論と事実を縦糸と横糸のように編み上げる作業は手書きに限る。手で書きながら考え、自分のものにしていく作業なのだ。コピーアンドペーストした文書は早く完成しても、これは文書ではなく文字で作られたパズルに過ぎない。パズルは解けても理論を自分のものにできたかどうか。

ソチ・オリンピックの興奮覚めやらぬ中、STAP細胞を巡る一連の騒動に胸が痛む。割烹着の彼女はSTAP細胞の存在を信じ、医療の発展に役立てたいと言った。私はその発展を心から望んでいる。彼女は何を早く手に入れたかったのだろう。どうか女子力ではなく科学的根拠で私たちを共感させてほしいと思うのです。私はSTAP細胞と同じくらいリケジョのスター出現に期待しているのですから。

(第133号 編集担当 飯野良枝)